

目次

1. 高次脳機能障害者に対する 臨床心理士の関わり



暑い日が続く季節になりましたね。体調管理に気を付けて過ごしたいものです。

1. 高次脳機能障害者に対する臨床心理士の関わり

臨床心理士は、本人や家族を心理的にサポートしつつ障害認識を深めたり、評価、認知訓練、代償方法や環境調整を進めるなどの関わりを行っています。いくつかポイントをまとめてみました。

①本人・家族の思いに寄り添って話を伺う

まずはじっくり話を聴く時間を設けます。今までどのような生活をしてきたのか、これからどうなりたいか、大事なものは何か、今困っていることはないか、現状をどう捉えているかなどを伺います。高次脳機能障害には自分の症状に気づきにくいという障害特性がありますが、押し付けにならないように気を付けながら、目標を決めてどのように取り組んでいくかを一緒に考えていきます。また、一番の支援者は家族です。家族が落ち着いていると本人も安心感を持てることが多いので、家族の思いを伺う時間を設けることも大切です。

②高次脳機能障害の症状について詳細な評価を行う

効果的な訓練や支援につなげるために神経心理学検査を行って、本人の状態を確認します。障害の程度が軽度の場合、点数には表れにくいので、検査の得点だけではなく、結果に至るまでの過程や反応の特徴、誤りの内容など数値化が難しい部分の確認も必要です。

③認知訓練の実施、代償方法の獲得、支援方法の検討をする

本人の希望や今の状態が確認できたら、それに合わせて認知訓練を行ったり、効果的な代償方法について考えていきます。一般的に良いと言われているものをそのまま使うばかりではなく、本人が使いやすいもの、必要としているものをうまく利用することで効果が高まります。

④不安やストレスを軽減するためのカウンセリング

病気や怪我で今までできたことができなくなって落ち込むことは正常な反応です。しかし、落ち込む期間が続くと鬱や無気力、不眠、慢性的なイライラなどの心理的な問題に繋がって社会生活に支障が出てくる場合があります。特に退院して社会に出てから様々なことを実感して悩むことが多いので、退院した後の支援も大切です。

